

とき、改めてその高度の先見性を認めざるを得ないのである。同時に又そのような医師・本居春庵の医学と実践の独自性が、その反面の国学者・本居宣長の深い思想性と世界に対する形而上的認識に依って支えられたものであった事実の確認は、改めて医（或いは医師）の原点とは何かの問題を現代に提起するものとして、重ねて重要な意義を有するものといわねばならない。

（杏林大学医学部倫理学研究室）

柚木太淳について

中野 操

柚木太淳は京都の医家で世に眼科を以て業とした。かねてから人体解剖に強い関心をもち寛政九年（一七九七）十月二日に男屍を解剖した。また眼球を精検して『眼科精義』を著した。尤大なる『京都の医学史』ではあるが、太淳についての記述は大変簡粗であるので、肖像、筆蹟、著書等によりその人物を描き出したいと思う。

（開業医）